

第2講 京都府で発生した地震

京都府には、地震源となる多くの活断層が確認されており(P.3活構造図参照)、歴史的にも、昭和2年の北丹後地震など、大きな被害をもたらした地震が多く記録されています。また、最近においても、微小な地震を含めて、多くの地震が観測されています。

京都府に大きな被害を及ぼした近年の主な地震

京都府の地震は、701年より記録があります。その記録を見ると、京都市付近で大きな被害があった地震だけでも、ほぼ100年に1回の割合で発生しているといえます。中でも、京都盆地周辺の活断層によると思われる地震は、しばしば大きな被害をもたらしています。

しかし、京都市付近では1830年の愛宕山付近の地震(マグニチュード=6.5)がもっとも新しく、以来160年以上大きな被害を及ぼした地震が起きていません。京都府南部では、1854年の伊賀・伊勢・大和の地震(マグニチュード=7.3)から144年、京都府北部では1927年の北丹後地震(マグニチュード=7.3)から71年が経過しました。これらのことから、統計的には大きな被害を招く地震が発生する危険性が高まってきていると考えられています。

表2 京都府の主な地震の記録

(西暦)	
1500	
1600	1596(慶長元)年 慶長伏見地震
1700	1662(寛文2)年 比良岳付近の地震
1800	1830(天保元)年 京都、隣国の地震
1900	1925(大正14)年 北但馬地震 1927(昭和2)年 北丹後地震
2000	

京都、隣国の地震

...1830(天保元)年8月19日
マグニチュード=6.5

震源は愛宕山付近。京都市付近に大きな被害をもたらした最後の地震。地震は鳴動に始まり、その直後大地震となった。京都で死者280人、亀岡で死者4人の被害を生じている。

比良岳付近の地震

...1662(寛文2)年6月16日
マグニチュード=7 $\frac{1}{4}$ ~7.6

比良岳付近の被害が大きく、滋賀唐橋・志賀では田畑85町歩が湖中に水没した。京都では町屋倒壊千戸、死者2百余人。六地藏や鞍馬で山が崩れ、向島では堤防が決壊した。

北丹後地震...1927(昭和2)年3月7日
マグニチュード=7.3

京都府北西部(竹野川上流が震央)の地震。北丹後一帯に被害が広がり、京都府内では死者2,898人、負傷者7,595人、家屋の全壊・全焼6,918戸を記録した。

北但馬地震...1925(大正14)年5月23日
マグニチュード=6.8

兵庫県但馬北部(城崎付近)の地震。京都府にも北部(久美浜町など)を中心に、死者7人、負傷者75人、家屋の全壊20戸の被害が及んだ。

慶長伏見地震...1596(慶長元)年9月5日
マグニチュード=7 $\frac{1}{2}$

京都三条から伏見の間で被害がもっとも多く、伏見城天守が大破し、石垣が崩れて5百余人が圧死した。京都では寺院や民家の多数が倒壊し、「洛中の死者4万5千」の記事もある。

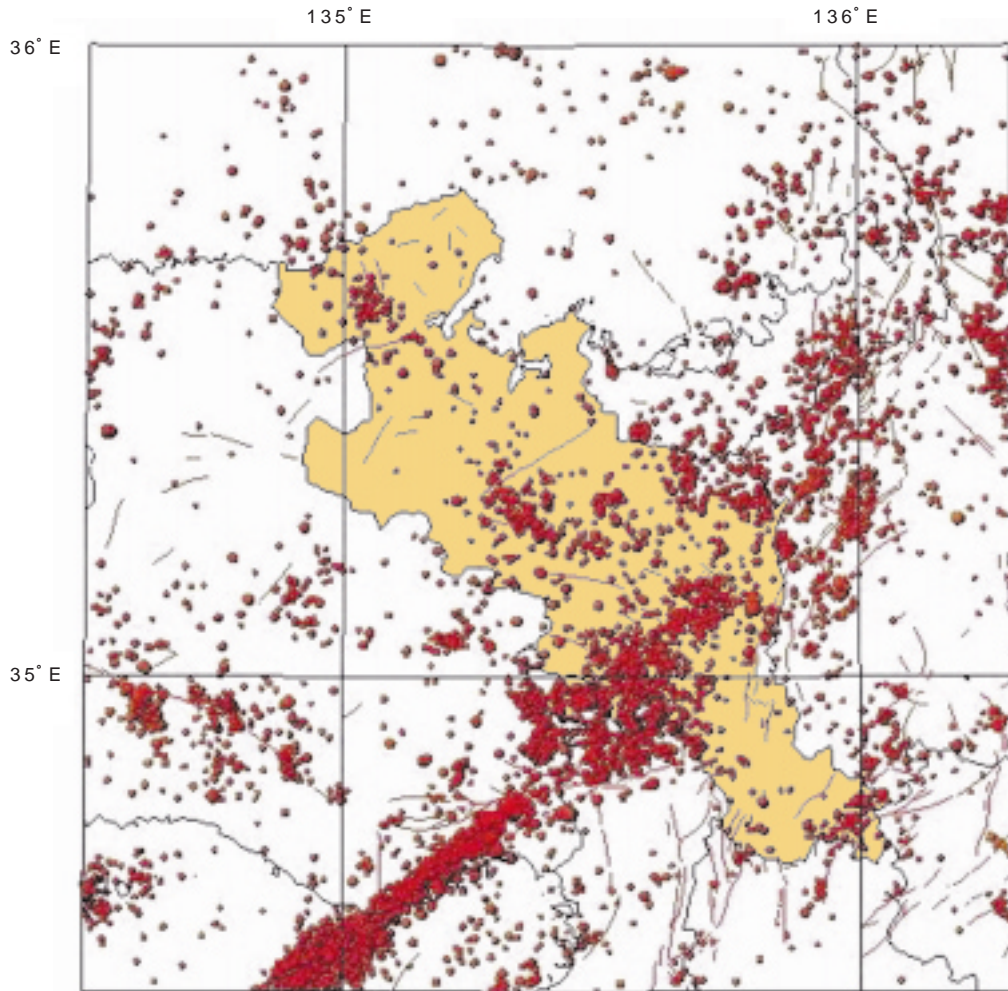


図5 京都府とその周辺における小さな地震まで含めた最近の浅い地震活動
(M2以上、1976～1995年、深さ30km以浅)

京都府周辺の最近の地震活動

近畿地方は活断層が密集している地域で、地震活動が活発です。

図5は、京都府とその周辺における小さな地震まで含めた最近の地震の発生状況を示したものです。京都府の中部から南部にかけて、たくさんの地震が発生していることがわかります。

京都府は
地震の多い地域。
対策には気が
抜けぬぞ。

